



東光寺の本堂にある間魔様の像。七四〇(元文五)年に録組より寄贈されたもの。かつて捕鯨で潤った歴史が垣間見える。



たくさん島の島王が眠る毘沙門寺。島や寺の歴史を丁寧に教えてくださるご住職のお話も実に興味深い。



藤原久道一族の墓。家盛を支えた久道は島の人に大切に祀られている。



大岩保雄さん。宇久島生まれの七十四歳。教職を退職後、歴史をはじめ植物や生き物など、あらゆる方面から宇久島を研究している。



宇久平港に建つ平家盛と藤原久道の像



宇久家の菩提寺「東光寺」

宇久島は「平家の里」と呼ばれている。平安時代後期の一一八七(文治三年)、平清盛の異母弟である平家盛が源平の戦いの後、都落ちして島の西端に上陸したと伝えられており、領主となつた家盛は宇久氏を名乗った。以降、七代約二百年にわたつて宇久島を治め、遂には五島藩を統一。五島藩の始祖が平家盛であることから、宇久島は五島藩発祥の地といわれている。

宇久島には家盛ゆかりの場所や伝説が数多く残されている。長年、宇久島の歴史

史を研究している大岩保雄さんはこう話す。「家盛の一番の重臣である藤原久道は、都落ちする際に資金の調達に駆けずり回るなどして、家盛を必死に助けました。この久道が家盛の亡き後、長男へと語り継いだものが『藏否輯録』として残っています。そこには上陸した家盛が夜露と潮風にさいなまれ、痛ましい様子であったけれども『端麗でおかしがたい容姿』であつたと書かれています。港に建つ家盛の銅像が端正な顔立ちをしているのは、この記録によるんですよ。残念ながら『藏否輯録』には家盛の人柄は書かれていないそうだが、島には家盛が神社へ行く途中に思わず滑つて転んだ「家盛公の滑り石」の伝説や、島の漁師たちが家盛をもてなしたとされる木椀が残されている。

宇久島



# 宇久島

五島列島の最北端に位置する宇久島は、佐世保港から約60kmの場所にある自然豊かな島。平安時代に平家盛が上陸し、五島藩の基礎を築いたことから、五島文化発祥の地といわれている。人口は約2,000人。

## 島の人々に

## 今も愛される

## 平家盛ゆかりの地

宇久家の菩提寺として家盛が建立したとされているのが「東光寺」だ。鮮やかな朱塗りの門をくぐり、本堂の裏手へまわると、家盛以下七代の墓が今も大切に祀られていた。大岩さんは「宇久島の人にとって家盛は、都から来て島を発展させてくれた、ありがたい人なんです。だから島の人にとって家盛は特別なんです」と目を細めた。

「毘沙門寺」は家盛が島に上陸した際、懐に大切にしまっていた毘沙門天を本尊とし、宇久家の祈願寺として代々崇められてきた。こちらの本堂には、毘沙門天の像はもちろん平安時代後期作といわれる十一面観音立像が安置されている。いつの時代も島の人々が手を合わせてきた仏像は、ご住職の「これは宇久島の宝です」という言葉そのものであった。